

「サイタマアートコロニープロジェクト -ヒアシンスハウス編 -」 コンセプトとねらい

浅見 俊哉

(プロジェクトディレクター)

新型コロナウイルス (COVID-19) の影響で、今、改めて文化芸術活動の在り方や役割について考える機会と場が求められています。

私たちは、コロナ禍、公共機関が所管・運営する美術館や文化施設が閉鎖となり、芸術祭の様な地域活動と結びついた現場も実施困難となり、文化芸術活動への参加の機会を失う経験をしました。文化芸術活動の在り方や役割について考えるときには、閉じた特定の領域の文化芸術活動の担い手だけで議論し、早急に答えを出すのではなく、広く文化芸術活動に携わる様々な領域の人が集まり、多角的・多層的な意見を交わす機会と場をつくるのが大切だと考えます。その機会や場を私たちは「アートコロニー」と表現し、実践します。

今回のプロジェクトの舞台となる、ヒアシンスハウスは立原道造が自分の創作のために設計した小屋としてばかりではなく、ここで様々な芸術家が集まるコロニーの構想もその発想の根底にあったと推測される魅力的な場です。これまでも SMF は、ここで、様々な文化的な企画を開催し、アーティストだけでなく、公園利用者との交流も活発に行ってきました。

今回のプロジェクトでは、主に5つのプログラム (レクチャー・ワークショップ・展覧会・シンポジウム・アンケート調査) を通して、ウィズコロナ時代の文化芸術活動を考える機会を創造したいと考えています。文化芸術の担い手だけでなく、2020年開催された「さいたま国際芸術祭 2020」で集ったアートを支える市民とも積極的に連携し、ヒアシンスハウスと立原道造の「芸術家コロニー構想」を共有するとともに、現在のウィズコロナ時代に合った文化芸術活動を共に楽しみ、支え育てる人たちのネットワークをつくります。そのネットワークを元に、日常生活の中でアートを愉しむ人たちが集い、様々な対話が生まれるアートプラットフォームの構築を目指します。